

第4回中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会 会議録

■日時：平成29年8月28日（月）午後3：00～午後5：00

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

奥野信宏委員長、有賀隆委員、伊藤美香委員、岡田邦彦委員、岡田博子委員、水谷重信委員、種橋潤治委員、中井孝幸委員、野村愛一郎委員、福永智子委員、藤井信雄委員、葛西文雄委員

■議事：

- 1 市民等からの意見の聴取について
- 2 図書館の蔵書の量と質について
- 3 施設全体の方針、施設計画について
 - 施設計画
 - 空間形成、施設の配置、建築等に関する方針
- 4 事業化計画の検討、基本計画の構成案について
 - 整備手法の検討
 - 管理運営体制の検討
 - 基本計画の構成案
- 5 今後のスケジュールについて

■内容

1 市民等からの意見の聴取について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・今の説明に関してご質問等があればご発言いただきたい。

D委員

- ・アンケートの説明の中で「理解できた」というのを「賛成」と報告されたように受け取ったが、あくまで施設整備の基本的な考え方について「理解できた」のであって考え方を「賛成」したのではないと思う。

事務局

- ・アンケートの設問としては中心市街地複合拠点施設整備の基本的な考え方について理解ができたかどうかを問うており、「賛成」「反対」は言いすぎかもしれないが、率直に「理解できた」と回答していただいた方が多かった。そのようにご理解いただければと思う。

2 図書館の蔵書の量と質について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・今の説明に関してご質問等があればご発言いただきたい。

C 委員

- ・四日市立図書館の蔵書は「文学」が多いというご説明であったが、「文学」は往々にしてベストセラーが入ってくるので、例えば芥川賞を受賞した本を10冊、20冊買わないと市民ニーズに応えられないということになり、そのブームが去ると読まれない本が沢山並ぶことになりかねない。運用をどのようにするのかいつも疑問に思っていて、あるべき蔵書のバランスと市民ニーズに応えることの調整機能が必要なのではないかと思う。私が若い頃に名古屋の図書館に通っていたが、ある著者の小説の新書が何百冊も並んでいてうんざりした覚えがある。

委員長

- ・蔵書のバランスについてのご意見だったと思う。

3 施設全体の方針、施設計画について

○施設計画

○空間形成、施設の配置、建築等に関する方針

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・施設全体の方針については第3回委員会でも資料として出されたが、今回はより詳しい内容となっている。駐車場については、例えば安城市の図書館が最近できて評判はいいが、駐車台数が少ないと市民から意見が出ているようだ。桑名市の図書館も評判はいいが高校生などが利用して駐輪場のスペースが足りないため駐車場の一部を駐輪場に変えたと聞いている。四日市の場合は中心市街地なので、市営中央駐車場の利用を含めて課題があると思う。お気づきの点があればお伺いしたい。

D 委員

- ・市営中央駐車場について、今までは図書館の利用者のことを考えて計画されているが、市役所の利用者も同じ駐車場を使うので、市役所の利用者が不便になるのではないかと懸念している。今日も市営駐車場を利用し、改めて市役所の利用者が多いことを感じた。抜本的に駐車場を考えないとこの計画は後で問題が起こると思う。

事務局

- ・駐車場については色々な意見があり、市民の方からも意見を幾つかいただいている。まずは公共交通の利便性を図っていききたい。前回もご説明したように、市役所前のバス停については近鉄四日市駅からのバス路線がほぼ通っているのでまずは既存の公共交通を充実させ、ループバスも検討していく中で、なるべく公共交通機関を利用しただけの環境づくりを目指したい。中心市街地を面的に捉えれば駐車場を確保できるので、あとはピーク時をどうするかを考えたい。例えば、先日のシンポジウムの時は休日だったので、みなさんスムーズに市営中央駐車場を利用することができたと思う。一方、平日は火曜日や木曜日をはじめ市役所や総合会館の利用が多く、平日のピークカットをどのようにするかが課題だと思う。図書館協議会の方からも意見を頂いているように、市営中央駐車場は、市の公用車の駐車場にもなっているので災害時用の公用車など一部を除き、公用車を別の場所に移すことも今後考える必要がある。また、自動車文庫の駐車スペース、おもいやり駐車場についても今後考える必要がある。色々なアクセスの方法を総合的に考えて検討していきたい。

F 委員

- ・床の面積配分について、今でも中学生や高校生が学習室を利用されていると思うが、現状の自習室と新しい施設の自習室とどのように変化するのがわかれば教えていただきたい。

事務局

- ・学習室は高校生と社会人がよく利用している。調べ学習といって図書館内の蔵書を使って勉強する人もいれば、資料を持ち込んで自習する人もいる。現状では、図書館内においては調べ学習のための席を設け、自習については多世代交流機能の部屋や共用フロアの方で設けるなど、利用実態に合わせた配分を考えている。

H 委員

- ・今は何席なのか。

事務局

- ・現図書館では 200 席ほどを 3 階の学習室に設けており、平日は社会人の方が 30 から 40 名ほどご利用いただいている、高校のテスト期間中は高校生であふれるほどの利用がある。
- ・さらに、新しい図書館では 3 ページにあるように一般成人のエリアでは閲覧席・学習席を 220 から 250 席、子どもと子育てのエリアでは 130 から 160 席、ティーンズエリアでは 150 から 160 席、資料情報のエリアでは 50 から 80 席程度配置することを考えている。今後のデザインにもよるが、現状の図書館の閉鎖的な空間、研修室のような場所に勉強しに来るスペースというものよりは、至るところに椅子、あるいは机・テーブルがあるなど様々な学習スペースを開架の書棚の周りに設けていく考えである。これは最近の図書館の傾向を踏まえ、閉鎖空間というよりは閲覧・開架スペースのところに座席を設けていくという考えである。

F 委員

- ・そうすると、従来のように静かに学習する閉鎖空間は新しい構想ではないという考えなのか。

事務局

- ・今回は複合施設であり、多世代交流機能の中に学習スペースやミーティングルームなどを設置するので、それらの活用もできる。

A 委員

- ・7 ページまで、丁寧に情報が追加されてまとまってきており、内容について基本的には賛成である。それを踏まえ、前回までに議論は色々あったが、図書館機能と他の機能との共存などリアルな人数の積み上げがされて確度が上がってきたというのが率直な感想である。図書館でいえば例えば 10 の方針があるなどそれぞれの機能について方針が示されていて、他の機能も含めてこれらの方針を合意していくことが大事だと思う。後半の事業化計画の検討は後ほど説明があると思うがこれらは別にして、今後のスケジュールを考えると前半の 7 ページまでは大枠を固めていくべきだと思う。その点でいえば、4 ページの垂直ゾーニングの 4 つのパターンは、事務局として推奨するパターンをもう少し説明いただければと思う。個人的にはパターン 1 の A か B の 2 つが現実的だと思う。自動書庫を低層階に置くのは浸水の危険があり、中層階に置くと図書館フロア及び他のフロアの使い勝手が悪くなる。駐車場について若干積み残しはあるかもしれないが、それ以外はまとまってきていると思う。

委員長

- ・4 ページの配置パターンについては、前回の委員会で確か自動書庫を上にするると構造上問題があるのではないかというご指摘だったかと思うが、その後事務局の方で調べていただいて他都市でも事例があるということだったかと思う。事務局にご説明をお願いしたい。

事務局

- ・事務局としても1-Aか1-Bと考えている。AとBの違いは1、2階の使い方で、多くの市民が集まってくるので入りやすい空間にしていくなら1階を吹抜け空間とするのが必須となり、中央通りと三滝通りといった外の空間とも一体利用していくことを考えている。1-Bの場合は2階から図書館となり、1階からの吹抜けが図書館の間取りに影響したり、図書館に音が伝わってしまうので、事務局としては1-Aが最も良いと考えており、1、2階を多世代交流機能でまとめて3階から図書館とする配置が良いと考えている。自動書庫については構造上多少費用がかかるものの、技術的に難しいことではないと考えている。

G委員

- ・駐車台数について365台ということは私が申し上げたものだが、やはり新しく図書館を有する複合拠点施設を整備するため新しい需要も生まれる。駐車場のあり方についても他のアイデアがあると思われ、引き続き検討をしていただきたいと思う。
- ・2ページの方針では⑤に「その他施設に関する整備方針」が入っているので、3ページの配分計画のところでも⑤を入れるべきだと思う。例えば1階のエントランスホール、各階のエレベーターなどは共用部分に入れていいと思う。資料の中で各所に「交流共用スペース」とあるのでここで読み取れなくもないが、施設全体の機械室、トイレなども数%程出てくると思う。13,150㎡をしっかりと分けなくても約何㎡、あるいは何%程度というような書き方でもいいと思う。
- ・図書館について、感覚的に子どもと子育てのエリアで1700㎡というのは相当大きくて間延びしてしまい、逆に一般成人のエリアの面積が1700㎡では足りないのではないかと思う。事務局の方では以前からフロアごとにおさめることを考えているようだが、そこまでしっかりと配分できないと思う。
- ・他にも、交流共用スペースやカウンター、エレベーター、授乳室等でそれぞれ約300㎡と書かれているが25mプールが入るような大きなスペースで、カウンターだけでそんなに必要かと思ってしまう。そこには廊下部分も含まれているだろう。共用スペースは1~2割程度になると思うが、按分してもらえばいいと思う。
- ・数値を明確に出すと数字がひとり歩きしていくので、算出根拠だけ持っていただき、ここまできっちり書かなくていいと思う。全体にもう少し書き方の工夫をしていただければと思う。

A委員

- ・今ご指摘があったように、3ページの各エリアにある交流共用スペース約300㎡と、右側の交流共用エリアの中にある交流共用スペース約900㎡というのはどこを指すのか。

事務局

- ・第3回委員会の資料の中で、4つの機能のうち図書館以外の3つの機能をコンパクトにした結果、13,150㎡から引き算して図書館が9000㎡を配分していたが、交流共用エリアの900㎡は1階のエントランスホールなどであることから、1300㎡は施設全体の共用部に出すという考え方である。

H委員

- ・主な機能については賛同している。駐車場については、市立四日市病院でも集中する時間帯がある。ITを使って予約制にするなどにより時間帯を分散させることを考えてもいいのではないか。今一度周辺で臨時的に使える駐車スペースがないかなど、事務局の方で真剣になって考えていただいた方がいいのではないか。
- ・これは質問になるが、5ページで中央通りから歩行者を横断しやすくする整備の検討と書かれているが、中心市街地で議論をすると必ず意見として出てくるのはクスノキが植えられている中央分離帯の活用である。今回の施設整備では直接関係ないかもしれないが駅につながっていく部分になるので、別途検討が行われている近鉄四日市駅周辺整備事業にも絡んでくると思うが、市のお考えを伺いたい。

事務局

- ・中央分離帯のクスノキが植えられた空間は、市民の方も外部から来られた方もとてもいい空間で、散歩したりオープンカフェ的な空間になってもいいだろうと言われ続けてきたが、なかなか利用できていないのが現状である。これまでもイベントの時に電飾をするなど、一過性の活用は行われたことがある。これは中心市街地のまちづくりとしてずっと持ち続けている課題であり、今回の拠点施設整備により多くの方が集まるので、目の前の中央分離帯の活用についても提案をしておきたい。今回の施設整備で行えるわけではないが方向性を打ち出すことで、今後別途検討する近鉄四日市駅周辺整備事業における中心市街地の道路整備につながってくると思う。

E 委員

- ・これまで時間をかけて資料はよくまとめられたと思う。3 ページの市民活動をサポートするワークショップスペースが考えられているが、音楽、ダンス、演劇、展示などを扱う空間について、昨年に市は三浜文化会館を整備したのだが、そこでの整合性というか機能がダブってしまってもったいないと思う。橋北にも専門的なものをやれる場所として橋北交流会館がある。なぜ拠点施設の中にそういう機能を入れるのか、スペース的にも余裕がないと思われる。この点についてご説明いただきたい。

事務局

- ・図書館に対する機能について、単純に本を借りるだけの図書館ではなく、近年、他都市では様々な機能を持った図書館ということで図書館が複合化してきており、図書館サイドで施設内の機能を活用して文化的なイベントを行うケースも出てきている。今回は図書館の建て替へと、中心市街地の活性化、人が集まる施設を目指すというのが事の発端であるが、図書館サイドからも単に本を借りるだけでなく人が集まって文化的なイベントや活動することも求められてきている。ワークショップスペースは、音楽、ダンスなどに利用するので防音設備は設けるが、他にも展示、イベント空間など多機能なものにして図書館サイドとしてもイベントに使えるようにし、相互に利用することを想定している。三浜文化会館、橋北交流会館と市内の南部、北部に整備しており、同じような機能を持つ施設ではないかと懸念されてのご発言かもしれないが、中心市街地において今回のような機能が望まれるのではないかと考えている。市民意見の中でも多機能な施設についての要望がある。

委員長

- ・今のご指摘のような機能のダブリなどについては、実施計画を詰めていく中で整理する必要があると思う。まだご意見はあるかもしれないが、時間も限られているので次の議題に移っていきたい。よって、資料P 1 から P 7 までの内容について、概ね了承ということでよろしいか。
⇒ (委員より異議なしの声あり)

4 事業化計画の検討、基本計画の構成案について

- 整備手法の検討
 - 管理運営体制の検討
 - 基本計画の構成案
- 資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・事業化の方法については、全国で色々な事例が出ており、四日市にとってどんな方法が最もいいのかをこれから考えていければと思う。本日は、色々な側面からみなさんのお考えを出していただきたい。

B 委員

- ・今の図書館ができた当時、昭和 48 年頃のことをうかがう機会があり、図書館建設委員会で市民のための貸出中心の図書館を目指すということがしっかりと議論されたということである。最も重要視されたのは司書を 2 人置くなど当時としては画期的だった。資料に書かれているように規模や内容を固めていくのも大事だとは思いますが、四日市にしかできない文化をつくっていくことも大事だと思う。

J 委員

- ・事務局的な発言になるが、今回は 7 ページまでの方向性について概ね賛同いただけたと思う。その後の資料である整備手法については、行政と議会で調整することになるものではあるが、これから議会上に基本計画としてその内容を説明していくことを考えた場合に、例えば、概算事業費について A パターン、B パターンなど比較できる資料にするなどもう少し詰める必要があると思う。
- ・先程ご質問があったように、学校跡地の活用事例として、三浜文化会館は市民の文化活動を支援する施設に、橋北は子育てを支援する施設とした。一方で今回の施設は図書館機能とそれ以外の機能と分けすぎていて、三浜や橋北と競合するという錯覚になってしまっているのかもしれない。新しい施設は中心市街地にあるというだけでなく、事務局の説明にもあったように施設全体が時代の流れに合った新しい図書館と見ていただき、図書館を中心に従来型の図書館にはなかった機能も含めて整備するという説明の方がわかりやすいと思う。
- ・今回の新図書館の計画については、現在の総合計画を策定する時に議会の強い意見で総合計画の期間内に新しい図書館の立地場所を決めて整備構想を策定することを位置づけ、今日に至っている。別途、都市整備部が中心になって、近鉄四日市駅西の駅前広場の計画決定と駅東も含めた再整備を検討している。名古屋駅でも再整備が行われているが、その理由は 2027 年開通予定のリニアに向けて何もしなかつたら東京に全部吸い取られるので、名古屋の魅力を高めていこうという意識が強い。四日市もそのくらいの気構えをすとなれば、今回の施設は多世代交流ができ、市民も四日市に魅力を感じ、行ってみようかという施設にしていきたい。そうなると、ハコモノを作ると同時にどういう事業手法を使って財源計画を立てるか。便益として孫の世代まで使ってもらえる施設にしていくというチャレンジをするべきだと思う。やはりいいものを一日でも早くつくった方がいい。先ほど申し上げたように、7 ページまでの内容を確実にするためにも、それ以降の資料について先程も申し上げたように概算事業費もパターンで比較できるようにするなど内容を詰めるべきだと思う。そうでなければ委員のみなさまが発言しにくく、ご迷惑をかける。次回に向けて内容を詰めていきたい。

委員長

- ・今後 10 年でまちづくりは四日市や名古屋に限らず全国で大きく変わり、国土審議会では時代に対応するための政策を検討している。国土審議会の中の計画推進部会の下に住み続けられる国土専門委員会というのがあり、コンパクトなまちづくりを進める上で何が課題になるか、そのための政策について検討している。例えば、中山間地域では以前から限界集落が課題となっているが、人口は減りながらも集落は維持してきている。近年は、中山間地より大都市周辺の間都市の持続可能性が大きな問題になっている。岐阜市も名古屋市に吸い取られるのではと危機意識が高い。
- ・まちづくりで行政は重要な機能を今後も果たすが、民間が参画するエリアマネジメントが今後進む。具体的には大阪・北梅田の B I D (Business Improvement District : ビジネス活性化地区) で、企業が中心となって民間グループから地権者から実質的な税金、開発負担金をとって自分達で社会資本を整備するという仕組みが既に動いている。東京駅から皇居までの行幸通りでは、民間と都が協定を結び 7 : 3 で費用を負担して民間が実質的な運営をしている。札幌の地下歩行空間についても、札幌駅から大通り公園に抜ける地下歩行空間は広場の位置づけで、中央を歩行空間とし両側は憩いやイベントの空間になっていて賑わいが生まれている。名古屋でも広小路通や久屋大通を市道にしているからいけないのであり、条例で広場にしていってその中を車を通してあげるという構造にすれ

ば、広い歩道にテーブルを並べることも可能だと思う。

- ・公共交通についても10年間で大きく変わる。BRT、自動運転、連結バス、燃料電池というのを名古屋でも検討している。人口が少ないところでは高齢者の方でも利用できるよう、小型の自動運転車が普及するかもしれない。専門家の方の話では、人工衛星を4つ打ち上げれば、高精度で自動運転の制御も可能だという。手法も技術的な問題も毎年速いスピードで変わっており、それを踏まえて市の方でも考えられるメニューをあげるとこういうものだという事をお示しいただいたと思う。後半の資料はまだ方向性を決めたわけでもないなので、まだ議論が必要だと思う。

A 委員

- ・6月18日のシンポジウムで4つの分科会に分かれて議論され、私も拝聴したが、その中で大事な論点として司書の問題が出ていた。今回の資料にも出されていた蔵書の量や種類は本という形式化された知の質を担保するものだと思う。一方、司書については、地域情報を網羅されている司書がいることによる図書館機能の充実、あるいは司書の質の担保が大事だという意見がどの分科会でも出ていた。蔵書の数や種類である「形式知」は達成できると思うが、司書がもっている「暗黙知」、人が持っている知恵をどのような仕組みとすれば質が担保できるか、司書の関わりをどの様に計画に位置付けるのかを次回以降も気にかけて見たいと思う。この点は、新しい拠点施設で民間が運営に参画しても共存可能だと思う。
- ・もう1つは、中央通りや広い歩道のような公共空間をハード整備だけでなく、営利・非営利で地域事業として活用できるような資料を次回用意していただければと思う。

D 委員

- ・私は市民の代表としてこの場にいると思っている。図書館に関わる私達の気持ちを先日のシンポジウムや懇談会で聞いていただいたと思う。今日もその時の結果を丁寧に整理していただけてありがたいと思う。それをどのように活かしていくか、どのように取り上げていくかが大事だと思う。
- ・おこがましいかもしれないが、一市民としては市の人に汗をかいて施設を作っていただくことを考えていただきたい。市の方が一生懸命関わっていただければ市民の意見を聞いてくださると思う。民間活用というのはよくわかるが、一括でポンと民間に委託してしまうと、その後、市民の意見を伝えても民間では受け止めていただけないのではないかなと思う。

委員長

- ・市のプロデューサー機能ということかもしれないが、市民の意見を集約する手法はあるわけで、民間に委託する場合でもそのことは担保しておくことは可能だと思う。

5 今後のスケジュールについて

事務局

- ・当初のスケジュールでは9月末を目途に計画をまとめていくこととしていたが、シンポジウムや懇談会などを重ね、準備からまとめまでで4ヶ月ほどかかった。今後議論をしていただくことがまだあり、充実した資料を提出することを考えると、基本計画の策定を来年の1月くらいにできないかと考えており、平成30年1月まで委員の皆様への委嘱期間を延長することと、もう2、3回ほど策定委員会の開催をお願いさせていただきたい。要綱も改正させていただきたい。

奥野委員長

- ・事務局の方でも丁寧な資料作りがされており、委員のみなさまにも丁寧にお付き合いいただいていると考えている。

G 委員

- ・本日の資料の中では、もう少し市民でできることや活動を具体的に書いていただいた方が市民にとってもう少しわかりやすくなってよいと思う。市民が行う活動をイメージしやすいものとなるようにするとよい。先程も蔵書の量と質の話があったり、もう少し四日市らしさの要素が入るとさらに中身のある基本計画になると思う。

B 委員

- ・会議の時間が2時間と決まっているのか。資料の説明でも時間がかかったので、もう少し長く議論をしてもいいと思う。

委員長

- ・集中できるのは1時間半から2時間くらいが限度だと思う。今日もわかりやすくコンパクトに説明いただいたと思うが、今後検討していただければと思う。

C 委員

- ・計画は作った瞬間から情報が古くなるし、裏を返せばさらに進化していくことになると思う。計画に書いたからその通りにしかつけないというのではなく、絶えず進化をしていく、見直しを繰り返していくスタンスで取り組んでいただければと思う。

委員長

- ・限られた時間の中での議事進行に今後努めたいと思う。みなさまには今後もよろしくお願いしたい。

事務局

- ・次回は10月から11月開催を予定しており、委員のみなさまには改めて日程調整をお願いしたい。

以上